

学会からのお知らせ

2024 年第 1 号

通号 240 号

日本社会教育学会
https://www.jssace.jp/

2024 年度 六月集会のご案内

会場校から

和田 悠（立教大学文学部教育学科教授、同大学共生社会研究センター長）

前会長の上野景三会員から 6 月集会開催の打診を受けた。近年、私は日韓学術交流研究大会に参加し、知的刺激を受けている。上野会員とはそこでお会いする。学会から恩恵を受けている以上、何らかの恩返しをすべきだろう。また、近年の大学教員の多忙化は著しいが、立教大学は学生募集で苦勞することは現在のところはなく、労働条件としては恵まれている方だと思う。池袋駅から徒歩 10 分と交通アクセスもいい。学内のメディア環境も整っており、オンラインと対面のハイブリッド開催もスムーズにできる。前回（2015 年）の集会開催からもだいぶ時間が経った。断る理由はなかった。

私は文学部教育学科に所属している。立教学院には立教小学校という男子校があり、その関係で教育学科は初等教育専攻課程を擁している。必要最低限の教員数で切り盛りするのに、教員は二足の草鞋を履くことになる。私の主要な講義科目は社会教育・生涯学習論と社会科教育論であり、初等の社会科教育法も担当している。その代わり社会教育主事養成にはいっさい関わっていない。他方で立教大学には学校・社会教育講座があり、社会教育主事養成はそちらの仕事である。かつては

専任教員が配されていたが、現在は特任教員による運営で、昨年 4 月から三宅隆史会員が着任された。三宅会員も今回の集会成功に向けて協力してくださるとのこと心強い。ちなみに、社会教育士制度が始まってから、立教大学の社会教育主事養成課程の履修者数が激増しているとのこと。

立教大学は狭いキャンパスではあるが美しい景観。落成 100 年を超える諸聖徒礼拝堂をはじめとする煉瓦造建物群、丹下健三なのに控えめの異色作である旧図書館、立教学院展示館なども集会と合わせて楽しんでもらいたい。

【2024 年度日本社会教育学会 六月集会】

- ・日 時：6 月 1 日（土）13：00～18：15
6 月 2 日（日）9：00～16：40
※受付は各日、開始 30 分前から
- ・会 場：立教大学 14 号館（6/1）、5 号館（6/2）
- ・参加費：1500 円（会員の大学院生 1000 円）
学部生は無料（学生証添付の上、申込み）
- ※必ず事前にお申し込みください。（「お知らせ・募集（六月集会について）」（7 頁）もあわせてご参照ください。）

【目 次】

2024 年度 六月集会のご案内 会場校から	1
各地の研究集会のご案内	2
研究倫理研修会報告／オンライン・ロハ台実施報告	3
理事会だより／事務局だより	4
寄贈図書一覧	6
会員動向／お知らせ・募集	7

各地の研究集会のご案内

※詳細については、学会HP掲載のプログラムをご参照ください。

【第48回 東北・北海道研究集会】

- ・日時：5月25日（土）14：00～17：00
5月26日（日）9：30～自由研究発表
- ・テーマ：「地域再生への教育計画⑤
—民から学校をアップデートする—」
- ・会場：東北大学

【東海・北陸地区社会教育研究集会】

- ・日時：7月6日（土）13：00～16：00
- ・テーマ：「大学開放の今日的展開」
- ・会場：オンライン開催

【第48回 関西研究集会】

- ・日時：6月9日（日）10:30～16:30
- ・テーマ：「現場とともに交流と対話の方法をさぐる（3） —子ども・若者の学習支援を社会教育の観点からどう捉えるか」
- ・会場：大阪市立総合生涯学習センター

【第24回 中国・四国地区 社会教育研究集会】

- ・日時：7月7日（日）13：00～16：30
- ・テーマ：「社会教育・公民館実践とSDGs・
協働のまちづくり」
- ・会場：岡山市立西大寺公民館

【九州・沖縄地区六月集会】

- ・日時：6月22日（土）13:00～16:00
- ・テーマ：「地域の子ども・若者の居場所
づくりと社会教育」
- ・会場：別府大学

研究倫理研修会報告

岡 幸江（九州大学）

2023 年度研究大会（オンライン実施）の一プロジェクト研究の席上にて、会員外報告者に対し、一会員の発言により報告者が甚大な精神的被害をうけ退出するという事態が発生した。本件については、弁護士を通じた被害をうけた報告者と当学会とのやりとり、および学会としての検証作業が続けられてきた。そのなかで学会側が被害者側に提示する責務（こうしたことが今後おこらないようにするための課題）として重視された1つが、倫理研修への参加（視聴等）をすべての会員に求めることであった（これまでも倫理研修は行ってきたが集会参加者に参加が限られる限界があった）。今回企画された臨時の研究倫理研修会は、こうした背景により、2023 年 12 月 28 日 14 時～15 時半に zoom オンラインによるリアルタイム参加、およびオンデマンド動画視聴の併用方式にて、実施された。

研修では、生田周二会員（奈良教育大学特任教授）

に「ヘイトスピーチ問題と社会教育」のタイトルで講義をお願いした。まずヘイトスピーチをめぐる基本的理解やヘイトスピーチ解消法の制定の経緯や制定による影響の概要についておさえていただき、特に論点的に、表現の自由との関連をどう考えるかが提示された。「思想の自由市場」と「対抗原論の原則」において、対抗原論の原則がなりたつのは当事者間に立場の互換性がある場合であり、被害者自身による対抗原論だけでなく第三者による社会的な対抗原論が必要だという。我々個々人の責務を考える際に有益な指摘と思われる。最後にヘイトスピーチの何が問題かの論点提起をいただいたのち、時間の限りで質疑応答を行った。当日は年末ながら約 80 名の参加を得、その後約 100 名にオンデマンド動画を視聴いただいた。とはいえ会員の 4 分の 1 弱でもあり、上記主旨ご理解の上、未視聴会員にはぜひ視聴をお願いしたい。なおオンデマンド動画は 2024 年 6 月集会まで配信予定である。

オンライン・ロハ台実施報告

辻 智子（研究担当理事・北海道大学）

第 1 回目オンライン・ロハ台

日時：2024 年 1 月 31 日（水）19 時～

話題提供：松岡悠和さん（京都府立大学大学院）

オンライン・ロハ台とは大田堯さんが「農村のサークル活動」で描いた青年学級「ロハ台」実践に着想を得て名づけられたもので、ふだん顔を会わせることが難しい会員どうし、とりわけ若手の会員が、具体的な研究成果を糸口に研究上の喜びや悩みなどを平場で忌憚なく語りあう場として始まった。2023-2024 年度は研究担当理事 7 名がリレーする形で世話人（運営・進行）をつとめることとした（よろしくお願いたします）。

今回は本学会ジャーナル『社会教育学研究』第 59 巻（2023 年 6 月）に掲載された論文「少年団日本連盟と宗教系少年団の関係」をもとに著者の松岡悠和さんから、これまでの研究や活動の歩み、論文が

掲載されるまでの経緯や経過を簡単に話題提供していただいた。研究の出発点には松岡さんご自身のボーイスカウト活動の経験があること、近年、全国組織としての「連盟」が「中央」「中心」としてふるまう動きが目立つように感じられ、その一元的な姿勢を相対化すべく宗教系少年団との関係に注目したことが今回の研究につながったことなど、論文からだけではうかがい知れない背景を紹介していただいた。参加者（11 名）からは、歴史資料の入手方法、団体とのつきあい方、宗派や地域による差異、地域社会における宗教系少年団の位置づけ（そこに参加したのはどのような子どもたちだったのか）といった質問があり応答が行われた。松岡さん自身が宗教学と社会教育の両方に足場を置いていることから生じる研究の悩みと可能性、一次史料を読みすすめる中で見えてくる世界に関心をかきたてられていく様子なども話題になった。全体として松岡さんが感じている研究のおもしろさをおすそ分けいただいた、そんなひと時となった。

理事会だより

● 2024 年度第 2 回常任理事会

(2023 年 11 月 20 日: Zoom によるオンライン開催)

出席: 常任理事 11 名、全国理事 2 名、幹事 0 名、事務局次長 1 名、事務局員 1 名

1. 審議事項

- (1) 2024 年度第 1 回常任理事会議録が承認された。
- (2) 新入会者 2 名の入会が承認された。会費未納による退会者に関しては、当該会員に改めて声掛けをするなど継続して対応することが確認された。
- (3) 事務局次長を従来通り 2 名体制とすることとし、事務局から新たに山口香苗会員（秋田大学）が提案され、承認された。
- (4) 会費減額制度申請者の追加審議を行い、承認された。
- (5) 担当割の変更について審議を行った。担当理事の配置について再考し、一部の入れ替えを行うこととした。
- (6) 各担当の代表者を確認するとともに、それぞれの担当において必要な幹事の人数の確認を行い、今後の幹事の選出方法について提示し、承認された。
- (7) 各担当から、配付資料に沿って報告された。
 - ① 研究担当からは、自由研究発表やプロジェクト研究における「司会の手引き」を作成してはどうかという意見があったことが報告された。
 - ② ジャーナル担当からは、体制変更を受けて、今後、刊行に向けた協議を急ぐことが報告された。
 - ③ 通信・広報担当からは、編集の進捗状況について報告された。
 - ④ 国際交流担当からは、配付資料に沿って報告された。
 - ⑤ 組織・財政担当からは、配付資料に沿って報告された。
 - ⑥ 特別プロジェクトからは、12 月に開催予定の全体会の準備の進捗状況について報告された。

2. 報告事項

- (1) 第 70 回大会における「差別的発言」後の対応の経過について報告された。
- (2) 弁護士事務所との顧問契約について報告された。
- (3) 学会ホームページ保守管理を担っている EDL 社

が業務見直しに伴って今年度中に契約終了となることが報告された。新規の委託先には、EDL 社と同内容同価格で委託可能であるオープンソースワークショップ社を紹介されており、今後、契約内容の確認等を行っていく旨、報告された。

- (4) 文科省と継続的な協議の場を設けるため、12 月 13 日に協議を行うことが報告された。

● 2024 年度第 3 回常任理事会

(2023 年 12 月 18 日: Zoom によるオンライン開催)

出席: 常任理事 16 名、全国理事 0 名、幹事 0 名、事務局長 1 名、事務局員 1 名

1. 審議事項

- (1) 第 2 回常任理事会議事録が承認された。
- (2) 退会者 1 名、入会者 1 名について承認された。
- (3) 六月集会の開催日程候補を 6 月 1 日（土）・2 日（日）にて打診中であり、原則として対面開催となることが報告された。
- (4) ホームページ保守管理業務の委託先について報告され、EDL 社と同じ保守管理業務の内容で委託可能なオープンソースワークショップ社と契約を行うことが承認された。
- (5) 日本文教出版編集部からの表紙使用許可願について承認された。
- (6) 各担当から資料に従って報告があった。
 - ① 研究担当から、新プロジェクト運営委員候補の提案があり、承認された。
 - ② ジャーナル担当から、2 号体制となることを受け、編集委員会内規の変更について提案があり承認された。
 - ③ 通信・広報担当から、第 3 号の編集作業の進捗状況について報告された。
 - ④ 国際交流担当から、日韓学術交流会議の開催時期について提案があった。
 - ⑤ 組織・財政担当から、自主企画の開催規定について今後検討していく旨、報告された。インボイス制度の仕組みと他学会での制度適用状況についての調査依頼がされた。
 - ⑥ 特別プロジェクトから、12 月 25 日に全体会を

開催し、1月24日にプロジェクト学習会を予定していることが報告された。

2. 報告事項

(1) 幹事選出の経過報告がなされた。また幹事の人選については三役と各担当の代表とで協議して進めていくことが報告された。

(2) 文科省との懇談について、資料に従って報告があった。

(3) 第70回大会における「差別的発言」後の対応の経過について報告された。

(4) 緊急倫理研修会の開催について12月28日に開催することが報告された。

以上

事務局だより

◇寄贈図書等は新住所までお送りください。

新住所：〒189-0012

東京都東村山市萩山町2-6-10-1F

日本社会教育学会事務局

◇会費納入状況は、会員サイトへログインして確認できますので、学会費を納めていない会員は、下記へお振込みください。(9月で年度が替わりますので2023年9月から2024年度となっています。)

◇『社会教育学研究 60 巻』は年2回発行(60-1・60-2)都度一斉送付となります。

◇住所・所属変更は各自 HP の会員サイトにログインして変更してください。その際、所属ブロック・所属分類の変更もお忘れなく(通信に掲載するため所属変更の方は、メールにて事務局宛てご連絡ください)。

※年報・ジャーナルは、ご登録の住所に、東洋館他各印刷所より宅配業者のメール便にて配送しているため、郵便局へ転送届を提出しても転送されませんのでご注意ください!

◇現在、事務局は祝祭日除く月・木(10:30~16:30)リモートワーク中。電話受付はしておりませんので、問合せ等はメールでの連絡をお願いいたします。

【振込先】ゆうちょ銀行

振替口座 00150-1-87773

加入者名：日本社会教育学会

振込金額：10,000 円/年

他金融機関からの振込用口座番号：

〇一九(ゼロイチキョウ)店(019)

当座 0087773

寄贈図書一覧

No.	著 者	タ イ ト ル	巻 号	出版社	発行 年
1	中島恒雄 著	最新 できなかった子（生徒）をできる子（学生） にするのが教育		ミネルヴァ書房	2023
2	中島恒雄 著	新・二十一世紀の大学教育改革 —創立者が語る東京福祉大学・大学院の挑戦		ミネルヴァ書房	2023
3	山野晴雄 著	大正デモクラシーと地域民衆の自己教育運動 —自由大学運動の研究		自由大学研究・ 資料室	2023
4	かわさき市民アカデミ ー開学 30 周年記念事 業実行委員会 編	かわさき市民アカデミー 30 周年記念誌 1993.10 ～ 2023.9		かわさき市民ア カデミー	2023
5	日本公民館学会	日本公民館学会年報	第 20 号		2023
6	日本公民館学会	学会のあゆみ 2013 年～ 2023 年 —日本公民館学会 20 周年記念事業資料			2023
7	出相泰裕 編著	学び直しとりカレント教育 —大学開放の新しい展開		ミネルヴァ書房	2023
8	辻浩 編	高度経済成長と社会教育		大空出版社	2024
9	降旗信一・菊池稔 編 著	持続可能な社会をつくる幼児期の ESD 論 —子どもと環境		人言洞	2024
10	田中治彦 著	新 SDGs 論 —現状・歴史そして未来をとらえる		人言洞	2024

※事務局受領 2024 年 2 月末分まで

※本学会に寄贈された図書・資料については『社会教育学研究』の書評、図書紹介の対象となることがありますので、ご了承ください。

会員動向

〈入会〉

板倉 輝（東京大学大学院）

〈退会〉

（東北ブロック）佐藤 三三

（関東ブロック）今村 舞

（2023 年 12 月～2024 年 1 月受付分まで）

お知らせ・募集

●六月集会について

2024 年度六月集会（6 月 1 日（土）～2 日（日）立教大学）の参加は、事前申込のみとなります。当日の参加受付はいたしません。金銭の授受もしませんので参加費も事前振込といたします。

また、今後の状況次第では、オンライン開催となる可能性もありますので、必ず事前申込をしていただきますようお願いいたします。

《参加申込み》

学会 HP の申込システムからの申込になります（学会 HP に掲載のプログラムをお読みの上、お申込みください。）

参加費も事前振込になりますのでご注意ください。

申込み受付は、5 月 1 日（水）～5 月 15 日（水）です。

問合せ先：事務局アドレス
(jssace.office@gmail.com)

●第 71 回研究大会

自由研究発表・ラウンドテーブルの申込み

第 71 回研究大会は 9 月 6 日（金）～8 日（日）早稲田大学にて開催される予定です（6 日はオンライン、7・8 日は対面）。

《自由研究発表》

学会 HP の申込システムからの申込になります（学会 HP に掲載の要領をお読みの上、お申込みください）。

締め切りは 6 月 10 日（※切厳守）です。

発表時間の指定およびお申込み後のキャンセルはご遠慮ください。

＜大会参加申込み＞については、研究大会プログラムにてお知らせいたします（7 月末頃 HP に掲載予定）。

《ラウンドテーブル》

3 日目 9 月 8 日（日）13:00～15:00 の予定

ラウンドテーブルを希望される会員は、以下の項目をご記入のうえ、メールにて事務局へお申し込みください。

- ①テーマ
- ②コーディネーター氏名・所属
- ③報告者氏名・所属
- ④内容（200 字以内）ここに記載された内容は、原則、そのまま研究大会プログラム（2024 年 7 月下旬発行予定）に掲載させていただきます。

⑤締め切りは 6 月 30 日（木）

※お申込みの際は、件名をラウンドテーブルとし、内容は添付ファイルにしてください。

※送付先：事務局アドレス (jssace.office@gmail.com)

お知らせ・募集

●『社会教育学研究』第60巻第2号へ の投稿原稿の募集

『社会教育学研究』第60巻第2号（2024年11月刊行予定）への投稿原稿を募集いたします。投稿にあたっては、『社会教育学研究』第59巻末、及び学会Webページに掲載されている倫理宣言・編集規程・投稿規程・執筆要領を確認いただいた上で、本学会の会員専用サイトから『社会教育学研究』論文電子投稿システム[※]を用いて、下記の受付期間の間にご投稿ください。

【投稿原稿受付期間】

2024年6月1日（土）～2024年6月30日（日）

【年間2回刊行について】

『社会教育学研究』は、第60巻より年間2回の刊行となりました。今回は2号の募集となります。

【原稿種別について】

＜一般＞（これまでと同様の自由テーマによる論文）

- ・「研究論文」「研究ノート」「実践報告」の3種類の原稿を募集しています。
- ・研究論文においては研究上の独創性や学術的貢献の高さが、研究ノートにおいては各主題に関して適切なアプローチがなされていることが、実践報告は単なる実践紹介でなく実践の内容や成果をまとめることが期待されています。投稿の内容に応じて適切な原稿種を選択して投稿いただくようお願いします。詳しくは、編集規程・投稿規程・執筆要領をご参照ください。
- ・なお、投稿後の原稿種の変更は認めておりません。また、査読の過程において原稿種の変更を求めることはありません。投稿前に原稿種別について慎重にご検討いただきますようお願いします。

＜特集＞（以下の特集テーマに基づいた論文）

- ・「研究論文」「実践報告」の2種類の原稿を募集しています。
- ・テーマ：障害をめぐる社会教育・生涯学習
- ・趣旨：障害をめぐる社会教育・生涯学習が、学校教育や社会福祉なども含めた多領域にまたがるテーマであることを前提とし、以下の観点に留意した論文を募集する。障害の社会モデルを念頭に置き、障害をめぐる社会教育・生涯学習実践が排除や分断を克服しようとする営みであると捉え、その実践において社会変革に向かう力が生じる過程にある学びのありよう、あるいはそうした学びを支える組織や制度のありようなどに焦点を当てた研究論文等であること。

【査読基準の公開】

- ・『社会教育学研究』では、Webページにて「査読基準」を公開しています。投稿前にご参照ください。

【その他の留意点】

- ・本学会の研究倫理宣言を遵守しない原稿については、査読の対象になりません。投稿前に倫理宣言に目を通していただき、投稿する原稿の内容や研究方法に問題がないか、ご自身でチェックをいただくようお願いいたします。
- ・また、投稿規程、執筆要領を遵守していない論文も受理することはできません。ご注意ください。特に連続投稿（投稿規程の3）、二重投稿や自己盗用（投稿規程の5）にならないよう、事前のチェックをお願いします。
- ・近年、規定字数を超過した原稿が目立ちます。Wordのカウント機能を用いるなどして、事前に入念に確認をしてからご投稿ください。

（『社会教育学研究』編集委員会）

お知らせ・募集

●プロジェクト研究 新テーマ募集 (応募要領)

1. 趣旨・経緯

日本社会教育学会においてプロジェクト研究は学会員主体の開かれた共同研究を進める重要な取り組みです。ここでは社会教育が直面している重要な課題を研究テーマに設定し、定例の研究会を持ちながら3年程度をかけて研究していきます。

かつては研究担当理事を中心に理事会として研究課題を設定して行っていましたが（宿題研究・課題研究）、2000年代以降、学会員の多様な関心や問題意識を学会の組織的な研究活動に活かすために、また学会員の主体的参加を保障するために、学会として取り組むに値するテーマを募集・採択し、学会員から広く運営委員を募って研究活動を進めてゆく「プロジェクト研究」として再編されて今日に至っています。

上記を踏まえ、2024年度開始の新規プロジェクト研究テーマを以下の通り公募します。

2. 応募者資格

日本社会教育学会会員の個人ないし複数人によるグループ（ただし、現在進行中のプロジェクト研究の運営委員を除く）。なお、1つの応募につき応募者が4人以下だった場合、当該応募を採択する過程で応募者（テーマ提案者となる）を5～7人へ増やしていただくことになります（プロジェクト研究運営委員会内規第3条）。

3. 応募条件

- 1) 会員で広く研究・討議するにふさわしい社会教育に関する学術的テーマであること。
- 2) 3年間のプロジェクト研究を担う見通しがあること。

※採択後は、プロジェクト運営委員会内規にそって運営委員会を組織し、六月集会および研究大会などでプロジェクト研究の企画・運営を担っていただきます。

4. 応募方法

「日本社会教育学会プロジェクト研究 新テーマ提案書（様式）」を学会サイトから入手し、これを用いて作成の上、5月6日（月）までに学会事務局宛にメール添付で提出。

- 1) 応募者の氏名・所属（複数人での応募の場合は代表者を明記）
- 2) 提案する研究テーマ
- 3) 研究テーマ設定の趣旨
- 4) 提案する研究テーマの下で探究すべきと考える検討課題
- 5) 研究期間中の見通し

※応募に関する不明点や問合せは、研究担当理事までお寄せください。応募に際しての事前相談も歓迎いたします。過去あるいは現在進行中のプロジェクト研究の経験を紹介すること、学会員どうしをつなぐコーディネート等の支援も行います。

5. 選考・採択後のスケジュール

- ・提案書にもとづき常任理事会で審議・決定（採択）します。採択までの過程で、複数のテーマの統合や、テーマ名の変更が提案されることがあります。
- ・常任理事会での採択後、研究担当理事が全国理事会と会員総会で報告します。その過程で、応募者（提案者）と研究担当理事の間で協議の場を設ける場合があります。
- ・会員総会で報告がなされた後、応募者（提案者）は代表者を中心に、会員に向けてプロジェクト研究運営委員の公募を行い、常任理事会での承認を経て、運営委員会を発足させます。
- ・翌年（2025年）の六月集会からプロジェクト研究の企画を実施していただきます。

6. 【照会・提出先】

日本社会教育学会事務局
(jssace.office@gmail.com)

以上

「学会からのお知らせ」

2024 年 第 1 号（「学会通信」からの通号 240 号）

2024 年 4 月 26 日発行

【発行】日本社会教育学会 事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail: jssace.office@gmail.com <https://www.jssace.jp/>

【編集】古里貴士・前田耕司・村田和子（担当理事）、向井 健（事務局長）

【レイアウト】市民活動サポートセンター・アンティ多摩 E-mail: auntytama@a-simin.sakura.ne.jp
